



# わがまち 自慢

～町長室から～

## 玄海町データ

【人口】  
5,755人  
(平成29年10月31日現在)  
【面積】  
36km<sup>2</sup>



「ふるさと応援寄付金(ふるさと納税)」の定期便プラン「Premium Genkai」

「ふるさと応援寄付金」  
最も人気がある「佐賀牛」



養殖真鯛



ハウスミカン



『さがほのか』

## ふるさと納税制度がもたらした地域産業の活性化

おかげさまで、玄海町は平成26年度に「ふるさと納税」による寄付金額が約11億円で全国2位になりました。これによって得られた大きな成果は、単に寄付金額の多さではありません。この制度の活

用により、玄海町の生産者が産品を直接全国の消費者にPRできたこと、産品の販路を拡大できたことです。玄海町はそれまで一次産品で注目を集めることは少なかったのですが、「ふるさと納税」の返礼品として産品を活用したことで、全国の消費者に直接産品と情報を届けられるようになり、生産者の所得向上にもつながりました。

そして、従来にも増して、地元が商品開発や供給ルートの改善に熱心に取り組み出したことも大きな成果のひとつです。現在でも、ふるさと納税対策室と生産者の間で密に会議を行っており、新しい商品の企画やクレーム対応などについて議論を重ねています。そのやり取りを重ねる過程で、職員も

生産者も「想い」を共有できていくことが成功のカギでしょう。ふるさと納税対策室の職員は生産者と一緒になって汗をかいてくれていますし、そこそが地域を動かす力になっています。

## 薬用植物の国内生産拠点を狙って

玄海町のふるさと納税の返礼品として最も人気があるのが佐賀牛、2位がハウスミカン、3位がハウスイチゴの『さがほのか』、4位が養殖真鯛です。これらが玄海町の4大産品ですが、これに加えて新たな産業として力を入れているのが薬用植物栽培です。

製薬会社や化粧品メーカーの多

くが必要とする薬用植物のひとつに甘草があります。実は甘草の生産拠点が国内にはなく、ほとんどを中国からの輸入に依存しているのが実情です。町内には、もともと多種多様な薬用植物が多く自生していましたので、国内の薬用植物の栽培拠点を狙うとともに、特色のある産業として薬用植物栽培を興せたいと考え、その研究拠点として薬用植物栽培研究所(以下、薬草研究所)を設立しました。

ここでは九州大学、長崎国際大学と連携した薬用植物栽培の研究に取り組みとともに、農家への栽培方法の指導なども行っています。

現在、栽培されている甘草では含まれている有効成分が製薬向けの規格を満たすことができませ

が、将来的には製薬用の甘草を農家でも栽培できるようにしようと、薬草研究所での栽培方法の研究を進めているところです。

当面は化粧品向けのトウキ、ミシマサイコなどの薬用植物の栽培に取り組みしていきます。現状では薬用植物栽培に取り組む農家は7軒ほどですが、作付面積は拡大しつつあり、企業からの栽培契約の問い合わせも増えてきています。

最近では唐津市と玄海町で、国際的な美容・健康関連産業の集積を目指す『唐津コスメティック構想』の取り組みを進めています。その中核を担う一般社団法人ジャパン・コスメティックセンターが窓口となり、町内の農家が栽培したトウキが化粧品メーカーに出荷されて



玄海町を代表する名勝地「浜ノ浦の棚田」



薬用植物栽培研究所



薬用植物「甘草 (カンゾウ)」



薬用植物「トウキ」

います。将来的には、玄海町が全国的、ひいては世界的な「薬草のまち」として、世の中に貢献していることを願っています。

## 人々の活躍と次世代教育 で地域に更なる活力を

玄海町の自慢は一次産品だけではありません。地域を盛り上げようと活躍してくれる若手の人材も増えています。

昨年5月には、ふるさと納税返礼品への参加事業者が地域おこし団体『玄海ホットランナー』を結成しました。彼らは、自分たちの一次産品に誇りをもって全国に発信していくと、生産者どうしの情報共有や様々なイベントへの出店・販売などの活動に精力を出しています。メンバーはみんな熱い思いを持って活動していますから、それが地域をより生き活きとさせてくれることを期待しています。

また、玄海町はもともとスポーツが盛んなまちでもあります。最近では旅館組合のメンバーがスポーツイベント企画チーム『Make a Dream Genkai』を結成しました。玄海原子力発電所の運転が停止した影響で、発電所作業員を中心とした宿泊客が少なくなっています。そこで、週末にスポーツイベントを開催し、町外からスポーツチームやイベント参

加者を玄海町に呼び込み、宿泊してもらおうというのが彼らの取り組みです。徐々にイベントの知名度も上がってきているのは嬉しいことです。廃校を利用したイベント、音楽イベントなど、新しい企画のアイデアも様々で、今後の活動の展開が楽しみです。

それから、次世代の育成にも力を入れています。少子化が進み、複式学級で授業を行う学校もあつたため、そのような教育環境を改善しようと、町内すべての小・中学校を統合した小・中一貫校『玄海みらい学園』(以下、みらい学園)を平成27年4月に開校しました。小・中一貫校の非常に良いところは、8年生・9年生が1年生の面倒を見てくれるところです。学校を覗いてみると、そのような光

景をよく目にします。お兄さん・お姉さんぶりたい気持ちもあるのでしょうか、やはり小さい1年生彼らの振る舞いが、学校全体の雰囲気をとて温かいものになっています。

さらに、みらい学園と保育所との間の連携も進めており、みらい学園の先生が保育所にも出入りするようになっています。そうすることで、学校にあがった子供たちも安心感があるようで、実際に学校になじめない生徒が減りました。こうした環境のなかで、豊かな人間性を育み、大人になっていったんは地域を離れてしまっても、「また戻ってきたい」「地元の役に立ちたい」と思えるような地域にしたいと思っています。

## 「エネルギーのまち」として

「原発ゼロ」という声がよく聞かれますが、原子力発電なしでのエネルギー安定供給は、当分は難しいでしょう。そうであれば、原子力発電所に対する安全性を高めていけるようなまちづくりを、我々が実践していくべきだと考えています。一方で、玄海町では再生可能エネルギー導入に向けた検討も進めており、『次世代エネルギーパーク・あすびあ』での普及啓発も行っています。原子力への安全・安心を高めながら、新エネルギーの導入も模索することで、これからも「エネルギーのまち」として、その安定供給に貢献していきたいと考えています。(談)

地域おこし団体『玄海ホットランナー』



小・中一貫校『玄海みらい学園』



『次世代エネルギーパーク・あすびあ』

